

通所施設の感染症対策と対処法

～実際の取り組みと求められる役割～

株式会社 Re ambitious 代表取締役
理学療法士

福島 努

1 はじめに

2020年1月末日、新型コロナウイルスによる肺炎が拡大している中国の湖北省武漢市から、日本人を乗せた政府のチャーター機が羽田空港に到着したニュースが放送された頃、日本、いや世界がこのような状況になるとは誰が予測できたでしょうか。新型コロナウイルスの感染が全国に広がり、緊急事態宣言が出された中、通所介護事業所における感染対策と現場での対処、利用者の動向、また今後の通所介護に求められる役割について述べていきたい。

2 事業所紹介

弊社は2011年12月に創業。理学療法士をはじめ、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護福祉士などスタッフは40名。リハ特化型デイサー

ビスを中心に訪問看護、要支援者を対象としたフィットネス、幼児・小学生向けスポーツ教室「忍者ナイン」など4部門の事業を展開している。(図1)

当事業所は、利用者が地域で安心して暮らしていけるため、安心してリハビリが専念できる場所を作りたいという思いからリハ特化型デイサービスを開設した。(図2)

その運動量、リハの質に日本一との自負を持つサービスは利用者やその家族から高い信頼と評価を得ている。



図1 事業紹介

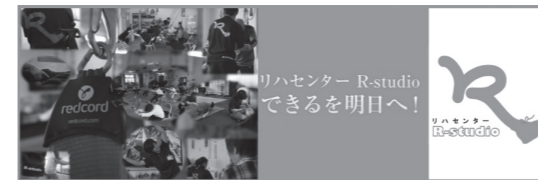


図2 R-studio 紹介

R-studioでは、利用者にとって、できることが明日への希望へとつながることを信じて、「できるを明日へ!」をコンセプトとして運営している。

3 新型コロナウイルスをめぐる主な動きと対応

新型コロナウイルスをめぐる主な動きと対応について経過を(図3)に示した。

3月2日に新型コロナウイルス感染症の施設対応のお知らせ(図4)を作成し、利用者、居宅事業所、ホームページ(https://www.re-ambitious.com)(図5)への掲載を行った。また、今後の対応説明や意向について個々の利用者、家族への電話を行った。

感染症対策として、体温計測、体調確認、消毒、換気の徹底に努めた。詳細については(図3)を参照してもらいたい。日々、繰り返される情報から今やるべき対策、万が一感染者が出た場合の対応について、対策会議を繰り返し、職員、利用者への情報提供、行動指針を提示することで不安回避を行なった。

また、問診票から利用者の体調管理や行動履歴を把握し、ケア記録の聴取を行い、合わせて接触者リスト、施設訪問者リストを作成し、万が一のための感染経路の把握にも努めた。



図5 ホームページ紹介

図3 新型コロナウイルスをめぐる主な動きと当事業所の対応と経過

年	月/日	出来事	R-studioでの対応と経過
2019	12月	中国、武漢市で原因不明の肺炎患者確認	
2020	1月16日	国内初の感染者を発表	
	2月5日	「ダイヤモンド・プリンセス号」横浜沖で14日間の船上隔離開始	
	2月13日	国内初の死者確認、感染経路不明の事例相次ぐ	
	2月27日	首相が全国の学校に臨時休校を要請	施設対応のお知らせ配布・HP掲載 感染対策の徹底(体温計測・消毒・換気)
	3月25日	東京都知事が週末の外出自粛を要請	
	4月3日	世界の感染者100万人突破	スタッフ・利用者マスク着用を必須とする(国・県の物資の補充により)
	4月7日	政府が緊急事態宣言を発表	臨時訪問サービスの導入・調整 利用者の体調管理と行動履歴の聴取、記録の徹底
	4月18日	国内感染者1万人突破	臨時訪問サービス開始
	5月4日	政府が緊急事態宣言5月31日までの延長を決定	休み継続の方への電話連絡・状態確認(算定なし)
	5月25日	緊急事態宣言解除	フレイル予防のチラシ(R通信)発行 臨時訪問サービス終了

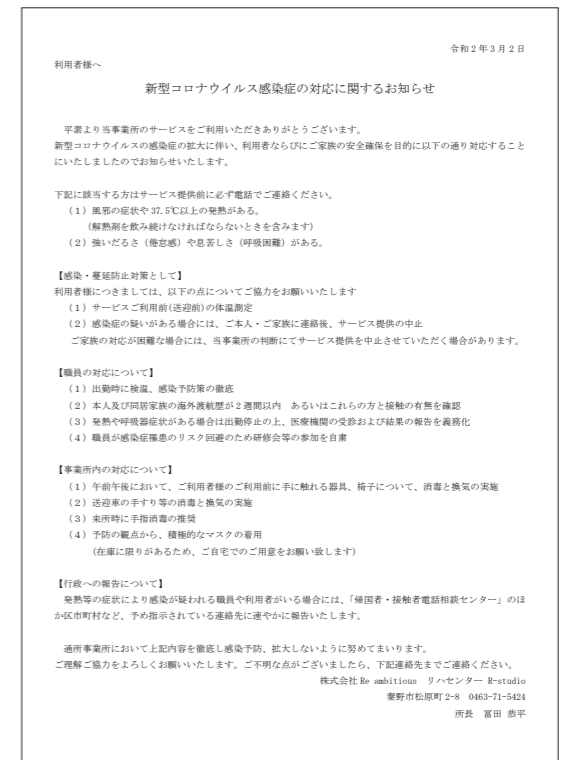


図4 R-studio コロナウイルス対策のお知らせ

4 臨時訪問サービス

緊急事態宣言後、通所の利用を自粛された利用者に対して、4月中旬より、理学療法士の訪問サービスを開始した(図6)。事業所の休業要請の可能性も懸念され、開始前は、介護職員も含めて、職員全員での自宅訪問での運動提供を検討していた。しかしながら、利用者の状態把握や評価に対する個別性ニーズの高さを見込み、当事業所の強みでもある常勤の理学療法士2名が、利用曜日の同じ時間帯で訪問できるように調整を行い、10名の利用者において40分の自宅訪問サービスを実施した。

運動内容としては、バイタルチェック、通所介護と同様のストレッチ体操、個別運動プログラムを実施。緊急事態宣言解除後の6月からは、身体機能の低下もみられることなく通所介護でのサービス再開へとつながっている。



図6 コロナ自宅訪問 チラシ

5 通所介護の利用中止者の半日型、1日型での違い

弊社は半日型の通所介護だけでなく、また通所介護と併設するR-studioフィットネスにて要支援者への総合事業、2020年1月より1日型の通所介護、R-studio PLUS+を開業している(図7)。総合事業の要支援者の自粛者は50%程度に対して、半日型の通所介護における利用自粛者は約30%程度、1日型の施設では3%程度であった。ここからも重症度の高い利用者におけるライフラインとしての役割、必要性を改めて感じている。

それとともに緊急事態宣言解除前から、利用中断していた利用者の身体機能の低下を感じ、利用再開の希望があった。また緊急事態宣言解除後には再開の連絡とともに、新規での問い合わせが殺到している。ここからも、通所介護の重要性が認められ、今後もよりよい運動サービスが提供できる場所を作り続けていきたい。



図7 R-studio PLUS+ 紹介

6 緊急事態宣言後の感染症対策と今後の課題

緊急事態宣言解除後も引き続きの感染予防対策の徹底に努めていく(図8)。

また、中止期間中の運動能力の低下の有無についても、毎月の身体機能の評価からしっかりと数値化し、エビデンスとして通所介護における運動の必要性を示していきたい。

緊急事態宣言解除後の感染対策の徹底

【利用前の確認により休みをお願いする場合】

- (1) 風邪の症状や発熱がある
- (2) 強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)、味覚・嗅覚障害がある

↓

利用休止の連絡またはお問い合わせ
○利用者様に以下の点についてご協力をお願いする

- (1) サービスご利用前(送迎前)の体温測定
- (2) 感染症の疑いがある場合には、ご本人・ご家族に連絡後、サービス提供の中止
ご家族の対応が困難な場合には、当事業所の判断にてサービス提供を中止させていただく要求をする

【職員の対応について】

- (1) 出勤時に検温、感染予防策の徹底
・スタッフ自ら発熱が生じた場合は、事業所に出勤困難であることを連絡。(2)へ対応移行
・家族が発熱した場合は事業所の判断によるものだが、医療機関に連絡した際、一応、自らの出勤の可否を確認してもらい、上長報告判断を仰ぐ
- (2) 発熱や呼吸器症状がある場合は医療機関に連絡し、受診を行う。検査(PCR検査含む)をしてもらい結果報告を義務とする
- (3) 職員が感染症罹患のリスク回避のため外部への活動を自粛。生活に必要なことに関してを含めて、外出する場合は行動履歴を把握・残しておく

【事業所内の対応について】

- (1) 午前午後において、ご利用者様のご利用前に手に触れる器具について、消毒と換気(営業中)の実施

【消毒場所】

- ・テーブル・イス(アームレスト)
- ・運動器具(レッドコード持ち手、ボード、自転車、枕、マット、ボール、ボール、フィットネス機器全般)
- ・バイタル道具(体温計、パルスオキシメーター、聴診器など)
- ・トイレドア、手すり、蛇口付近、スイッチ周囲
- ・出入口ドアノブ

- (2) 送迎車の手すり・シート等の消毒・除菌と換気の実施
- ・ビストン送迎の合間に実施を徹底
- (3) 来所時・食事やおやつ前手指消毒を実施
- (4) 送迎時からご利用者様・スタッフのマスクの着用を徹底
(在庫に限りがあるため、ご自宅でのご用意をお願い致して装着してもらう)

図8 緊急事態宣言解除後コロナウイルス対策

7 テイクアウトでの地元飲食店の応援(地域とのつながり)

近隣の飲食店応援キャンペーン(図9)として、お昼のお弁当を地元の飲食店に依頼して利用者、スタッフとともにいただいた。日頃からも外食することが少なく、気になっていたお店の料理が食べられることもあって、喜んでもらうことができ、とてもよい機会となった。

8 やるべきだった反省点

現在まで、感染者を出すことなく運営できているが、これまでを振り返り、当事業所においてどのように感染対策をしているのか、どのような判断基準で運営しているのか。利用者やスタッフに対して先回りの情報提示を必要以上に行っておくべきだと痛感している。幸いにも近隣、他県でも介護事業所を運営している者同士での情報交換ができていて、必要な対応がとれていることに日々の連携の大切さを忘れてはならない。

その他、マスクや消毒液の不足や高騰により、物品管理が不十分で



図9 飲食店応援



あったことから、今後の災害対策も含めて日頃からの準備を徹底していきたい。

9 | 経営的な視点

ここからは少し、経営的な視点でも話しておきたい。我々の介護事業においては2ヵ月遅れでの診療報酬の収入となる。そのため、直近でのキャッシュフローへの影響はないものの、この3ヵ月での収入の減少は3~4割となっている。その中でも、給与、賞与の保証をしていくことは経営者としての責任である。そのためにも、普段からの資金の確保を行っていかねなければならない。

弊社においては、通所介護の幹部達が自ら、毎年の予算を定め、その予算をもとにして、毎月の収支から目標の売り上げへとつながるように運営している。

スタッフ一人ひとりが経営者としての視点を持ち、運営することで、数字に対する自覚は、今後の介護事業所で働くものとして必要なことと思う。

そのためにも「財務三表」と呼ばれる損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書が読み解ける力も必要となってくる。財務三表を分析することで、会社の財政状態、経営成績の全体像が見え、経営状態や今後の見通し立てることが可能となってくる。

利益は企業の目的ではなく、存続の条件であり、明日もっとよい事業をするための条件である。医療、介護に携わる方にとっては、利益を目的とした考えをもった人のほうが少ないのかもしれないが、会社の存続、人材育成や新たなサービスに向けた未来への投資を行うためには、堅実な利益を出し資本を残していく必要があ

る。今回、しっかりとキャッシュを残している企業とそうではない企業で大きな差が生じ、たとえば社長でなくても、「会社の運営は大丈夫なのか?」、「自分の給料は保証してもらえるのか?」と不安になったと思う。そのような中でも、自らが計画的な経営視点と理解を持って働くことは自身の身を守ること、そして会社を守ることへとつながるかもしれない。

10 | 助成金・制度の活用

政府も様々な支援制度を打ち出してくれている。その中でも、子の保護者である労働者の休職に伴う所得の減少に対応するための休暇支援、雇用調整助成金とそれとともなう教育訓練を活用した研修。前年度の月より売上げが半減した場合に申請可能な持続化給付金、新型コロナウイルス感染症特別貸付による融資、また早期入金システムの活用など様々な補償制度があるが、それぞれが情報収集をしながら活用されたことと思われる。

また、通所介護事業所においては厚生省よりサービス継続支援事業としての支援も打ち出され、情報収集に常にアンテナをはっておくことが必要である。

11 | 逆行の時だからこそ、拡大ではなく充実

弊社においては、稼働率が減少した事業所においても、職員の配置を減少させることなく運営を行った。この時期だからこそ、一人ひとりの利用者への関わり、電話での連絡対応、事務作業の整理、サービス内容の見直しの時間をとることができた。

企業は人なり。順調は人を殺し、逆境は人を育てる。普段、当たり前のように運営していた空間がなくなったことで、自分たちの使命感、役割をどの職員も再認識させられた。

好況、不況に関わらず、高い収益性と安定性につながる王道は、社員の士気。感染のリスクや今後の不安がある中でも、その不安を最小限として自分たちを見つめ直せたことが、普段から行っている人材育成をさらに邁進させてくれたことは大きな収穫となった。この時期を乗り越えてさらに、良いサービスへとつながっている。

社員がもっと快適に働き、幸せになるためなら、投資を惜しんではいけない。各事業所においても、そのやり方はそれぞれであって、動機が正しければ、その後の仕事はうまくいくと信じている。

12 | 今後の価値観の転換

「今後、介護事業に求められるサービスとは何か?」、新型コロナウイルスの影響により経営が困難となってくる事業所、サービスの質、事業コンセプトがより求められ、差別化、各々の強みを打ち出していかなければならず、5年先の未来が加速して進められようとしている。

大手企業や強みを持った会社によるM & Aはもちろん、さらには介護事業のプラットフォーム化が進み、パッケージ化された生活スタイルの提案、保証など、そのあり方自体の変化が進んでいくと思われる。繰り返しになるが、その中で、自分たちの強み、差別化、さらには経営の多角化を行っていく必要がある。また、今後はさらなる連携は情報共有の範囲を越えて、事業連携も含め変化していくことだろう。まさにここからの生き残りはさらに厳しい道となる。

13 | 自分たちの存在意義

危機に直面して初めて真理が見えてくる。「われわれの事業とは何か?」

常に問いかけ、会社の理念に基づき運営していくことが大切だと感じている。

弊社の理念は、『私たちは「リハビリテーション」を通じ、「できるを明日へ」つなげ、周りの人を幸せにできる「人間・健康・地域」づくりに貢献していきます』として、人間・健康・地域づくりに貢献に努めている。(図10)

「最高のサービスは、個々の人格を高めていくこと」そのためにも、仕事を通じて一人一人が人間力を磨き続けられるよう、人を育て、人を活かす経営を行なっていきたい。

Rのリハ・看護・介護があれば安心と言われる健康づくり、そして、この地域に住んでよかった。この場所があつてよかった。「大切な家族を安心して任せられる」地域づくりを通じて「志を再び」を描ける場所として、介護・医療・福祉の事業を通じ、地域完結型事業を目指していきたい。

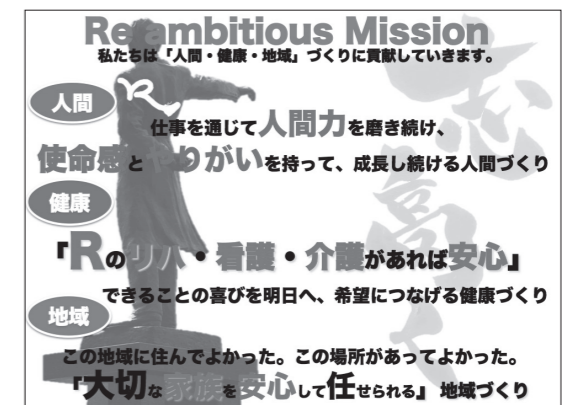


図10 Re ambitious ミッション